

最優秀賞

「わたしのスーパーお兄ちゃん」

鶴丸小学校 三年 よし村 みほ

「これはみほが使った物だからかたづけして。」

「わたしじゃないよ。そうまお兄ちゃんがさい後に使ったよ。」

わたしと三つ上のお兄ちゃんは、毎日けんかばかりしています。物の取り合いや、使ったティッシュをどちらが捨てるかや、車のざせきの取り合いなどのけんかです。

わたしのお母さんは、毎日のように、

「またけんか?」

「いいかげんにしなさい。」

と言っています。お兄ちゃんに

「ぼくの方が先だった。」

と言われると、ついはらがたつて、

「わたしの方が先だったよ。」

と言い返します。わたしがまちがっていてもわたしが正しいと言ってしまうのです。お兄ちゃんも自分がまちがっていないければ、ぜったいにゆずりません。

お兄ちゃんは、わたしにはすぐにおこるけれど、まわりの友だちにはとてもやさしいです。学校でも、もらったり、えらんだりするのはいつもさい後。わたしなら何でもさいしょにもらいたいし、早くえらびたいです。

わたしがお兄ちゃんが一番すごいなあと思うところは、何でも一生けんめいなところなんです。あいさつをするときは、かならず立ち止まって、

「おはようございます。」

「こんにちは。」

とていねいに行っています。わたしは、少しはずかしかったり、わすれてしまったりして、しっかり立ち止まって、あいさつをしていません。

お兄ちゃんは、生まれつき手足が不自由で思うように体を動かすことができません。でも、運動会や持久走大会では、みんなと同じように走ったり、おどったりします。わたしは、お兄ちゃんが弱音をはいたところを見

たことはありません。

お兄ちゃんのクラスメイトからの手紙に、「そうまくんは、いつも楽しそうであきらめないお兄ちゃんは、とてもかっこいいと思います。家ではけんばかりだけれど、じまんのお兄ちゃんです。これからもおうえんしてるね。わたしのスーパーお兄ちゃん!!」

